

# 新 宮古島市 neo 歴史文化ロード

城辺東・北コース



紋道

あやんつ

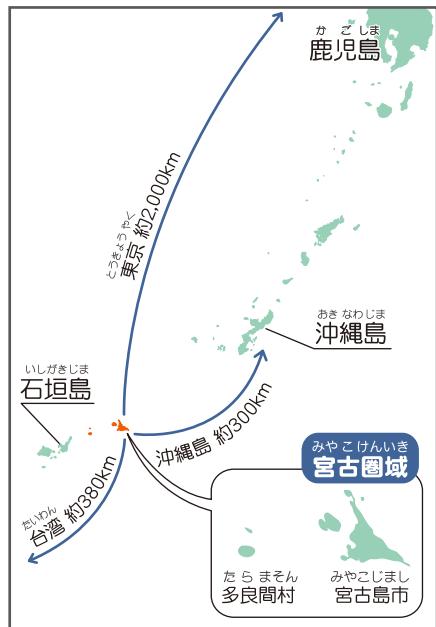
おもむき るも  
「趣のある道」のことを、宮古のことばで「あやんつ」といいます  
みやこ

# みやこじまし いちめんせき 宮古島市の位置と面積

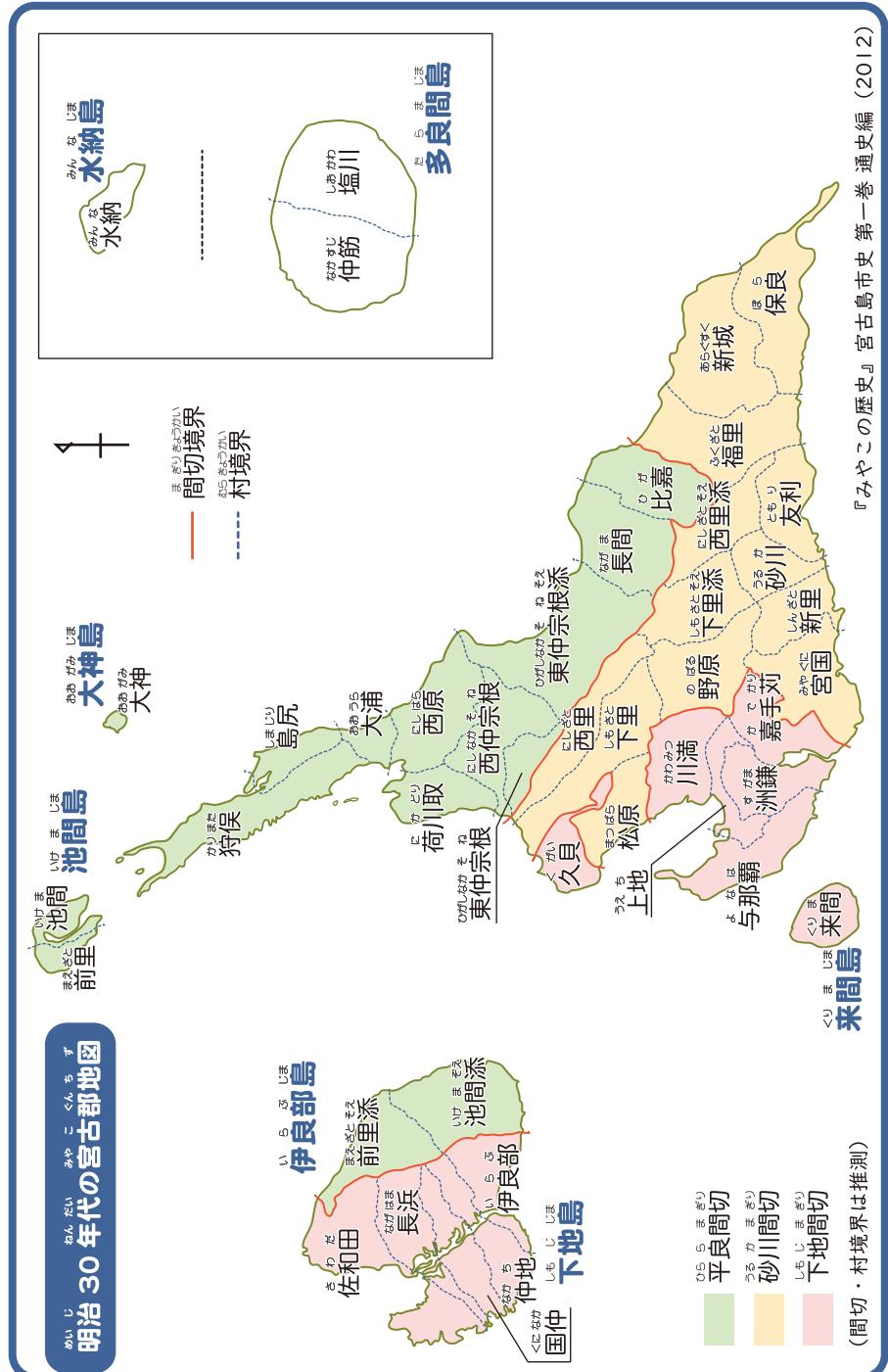
みやこじましまいしょうしまみやこじま  
宮古島市は大小6つの島(宮古島、下  
いけまじまおおがみじまくりまじまいらぶじましち  
池間島、大神島、来間島、伊良部島、下  
じじまこうせい  
地島)で構成されています。

そう めん せき へい ほう じん  
総面積は204平方キロメートル、人  
こう やく まん だい ぶ ぶん  
口約5万6,000人で、人口の大部分は  
ひら ち く しゅうちゅう  
平良地区に集中しています。

しま ぜん たい へい いたん さん がく ぶ おお  
島全体がほぼ平坦で、山岳部や大き  
か せん せい かつ よう すい  
な河川もなく、生活用水などのほとん  
ち か すい たよ  
どを地下水に頼っています。



# 明治 30 年代の宮古郡地図





## 宮古島市neo歴史文化ロード 綾道（城辺東・北コース）

うたき さいし おこな たいせつ ばしょ しんせい はい  
※御嶽は祭祀などを行う大切な場所です。神聖な場所なので入らないようにしましょう。

宮古島市の位置と面積	02	
明治30年代の宮古郡図	03	
<b>散策マップ(城辺東・北コース)</b>	06	
城辺地区の概要	08	
あざ ぐすくべ字まめちしき	09	
<b>散策マップ(保良・新城コース)</b>	10	
ひがし へんな さき <b>東平安名崎</b>	12	
ひがい へんな みさき りゅう さん ご しうかかいがんふうしとうしきぶつぐんらく けん し てい てん ねん き ねん ぶつ しょくぶ <b>東平安名岬の隆起珊瑚礁海岸風衝植物群落</b> 県指定天然記念物(植物)	12	
パナリの伝説	13	
マムヤの屋敷跡・機織り場・墓	市指定史跡	14
マムヤの物語	15	
みやこ じま ぱら せっかい か だんきゅう <b>宮古島良石の灰華段丘</b>	16	
せっかい か だん 石灰華段のできるまで	17	
ななまた <b>七又のミーマガー</b>	市指定有形民俗文化財	18
ウソヌンナツキ カンヌンナツキ 鬼の杵、神の杵とウンヌヤー	19	
ちからいし ななまた あらぐく にしちゅう し し ていゆう けい みんぞくぶん か ざい <b>ぐすくべのアギス(力石)七又・新城・西中</b> 市指定有形民俗文化財	20	
やまと おっぱい山	21	
なかはら か せき <b>仲原化石</b>	市指定天然記念物(地質)	22
クジラまめちしき	23	
さんさく にさとそえ しもざとそえ ふくざと <b>散策マップ(西里添・下里添・福里コース)</b>	24	
みやこ ち か すい ち か 宮古の地下水と地下ダム	26	
きゅうにしなかきょうどうせいいとうじょえんとつ <b>旧西中共同製糖場煙突</b>	28	
きゅうにしなかきょうどうせいいとうじょうあと <b>旧西中共同製糖場跡</b>	市指定史跡	28
こくとう 黒糖ができるまで	30	
かみく し しまい <b>上区の獅子舞</b>	市指定無形民俗文化財	32
とうがんすざ 唐金兄	33	
ぐすくべ にんとうぜい 城辺と人頭税	34	
まいがー ご しん ぼく じゅうへん しょくぶつぐんらく し し てい てん ねん き ねん ぶつ しょくぶつ <b>前井と御神木その周辺の植物群落</b> 市指定天然記念物(植物)	36	

ぐすくべ いちほう <b>城辺を一望できるいこいの森展望台</b>	37
さんさく ひがながま <b>散策マップ(比嘉・長間コース)</b>	38
さくら たき <b>西銘御嶽</b>	40
とびとり う たき しょくぶつぐんらく <b>飛鳥御嶽の植物群落</b>	41
とびとりしゅう ものがたり 飛鳥爺の物語	42
とびとりしゅう かんけい ず 飛鳥爺の関係図	43
やまがー <b>山川ウプカー</b>	44
みやこ ゆうすう すいでん 宮古有数の水田 ナガマダー	45
たかうじょうあと <b>高腰城跡</b>	46
たかうす あじ 高腰の按司	47
ひがし しまい <b>比嘉の獅子舞</b>	48
めがな がー <b>野加那泉</b>	49
すいふくすいどう 瑞福隧道	50
はいすい ろ かいしゅう しん 排水路の改修と新トンネル	51
ぬぐくがー <b>野城泉</b>	52
ミヤコチスジノリ	53
うらそこ いせき <b>浦底遺跡</b>	54
いせき <b>アラフ遺跡</b>	55
うらそこ いせき いせき しゅつど いぶつ 浦底遺跡やアラフ遺跡から出土した遺物	56
ぼら もとじま いせき <b>保良元島遺跡</b>	58
ぼら もとじま りゅう 保良元島の竜	59
しゅうへん いせきぐん 周辺の遺跡群	60
くに し てい てん ねん き ねん ぶつ どう ぶつ <b>国指定天然記念物(動物)</b>	62
ぶんかさい たいけい す 文化財の体系図	64
ぶんかさい いちれい それぞれの文化財の一例	65



# 城辺 東・北コース

所要時間 : 約3時間  
(約40km)

散策コース

ショートコース

新城・保良.....P10  
西里添・下里添・福里..P25  
長間・比嘉.....P38

マムヤの屋敷跡 P14

保良元島遺跡 P58

東平安名岬の隆起  
珊瑚礁海岸風衝  
植物群落 P12

平安名崎灯台

START

宮古島保良の石灰華段丘 P16

七又のミーマガーパーク P18

マムヤの機織り場 P14

マムヤの墓 P14

ぐすぐべの  
アギイス  
(七又) P20

鬼の杵 神の杵 P19

ウンヌヤー P19

保良村総代 平良真牛  
生誕地の碑 P34

ボラガー

みやこじまほらせつかいかだんきゅう

マムヤの墓 P14

野城泉 P52

浦底遺跡 P54

浦底漁港

瑞福隧道 P50

83

199

390

390

201

190

235

235

246

246

78

198

83

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

246

# 城辺



城辺の名称は、仲宗根豊見親が統治していた頃、友利、新里、砂川、宮国の4つの村や周辺地域を「城の方」と呼んだことから由来するといわれています。1908(明治41)年の特別町村制施行によって、9字の城辺村が誕生、1947(昭和22)年に城辺町となり、2005(平成17)年に市町村合併により宮古島市の一部となります。城辺は、地域を4等分するように3つの丘陵が東西に走り、その間はほぼ平坦な地形のため、農地として活用され、「農業のまち」として発展してきました。

## ぐすぐべ字まめちしき



地名から変遷がわかる！

西里添と下里添は、平良の西里と下里から分村してできた地域です。

平良地区
城辺地区
上野地区
下地地区

## 東西南北でざっくり分け

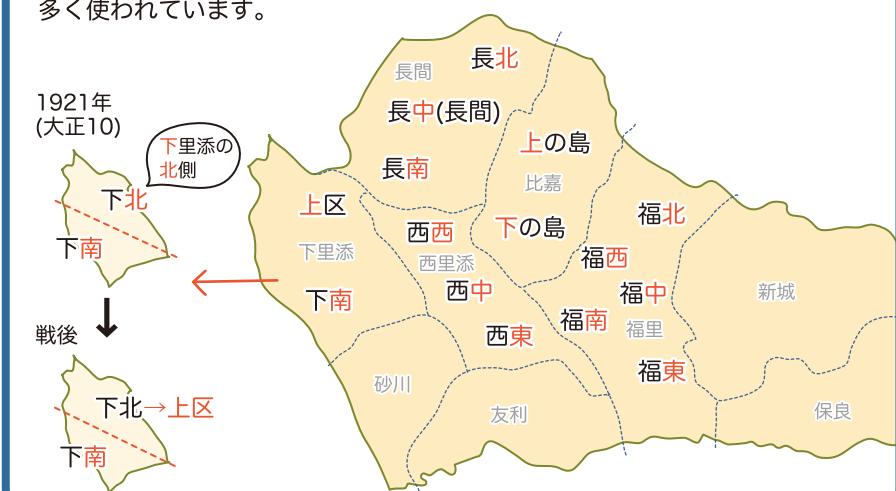
住所にある小字ではなく、集落ごとのざっくりとした区分け(行政区)で、地域の行事ごとなどは行われています。

城辺は東西南北や上下が地名に多く使われています。

これがわかると地名の位置関係も納得！

N ニス(北) 宮古の民俗方位は実際と少しずれている

「上・後ろ」  
「下・前」





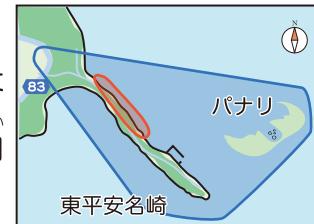
2007年(平成19)年2月6日指定

ひがし へんな ざき  
**東平安名崎**けんしていでんねんきねんぶつしょくぶつ  
県指定天然記念物(植物)追加指定 パナリ岩礁を含む周辺海域 2011(平成23)年2月7日  
灯台敷地 2014(平成26)年10月6日

1980(昭和55)年4月30日指定

ひがし へんな みさき りゅうきさん ご しょうかい がん ふう しょうしょくぶつ ぐん らく  
**東平安名岬の隆起珊瑚礁海岸風衝植物群落**

ひがし へんな ざき くに めいしょう してい にほん としこうえん せん  
東平安名岬は、国の名勝に指定され、日本の都市公園100選  
えら だいひょう けいしょうち へんな  
にも選ばれた宮古を代表する景勝地です。1998年には平安名  
ざきとう だい  
埼灯台が日本灯台50選に選ばれました。この一帯は常に強  
いったい つね きょう  
風のため高木は育たず、亜熱帯地方の風衝地特有の植物群落が  
はつたつ  
発達しています。ミズガンピ、コウライ  
シバ、ハマボッス、イソマツなどの群落  
とく こくない  
が見られ、特にテンノウメの群落は国内  
れい ひろ  
で例をみないほど広く発達しています。



## パナリの伝説

むかし、パナリには女だけが住んでいた村がありました。

ある時、ティダ(神様)が天から降りて来て、ひとりの女と恋仲になりました。女の子と男の子が生まれます。ティダは「男の子は私が天に連れて帰る。しばらくしたら連れに来る」といい、天に帰っていました。

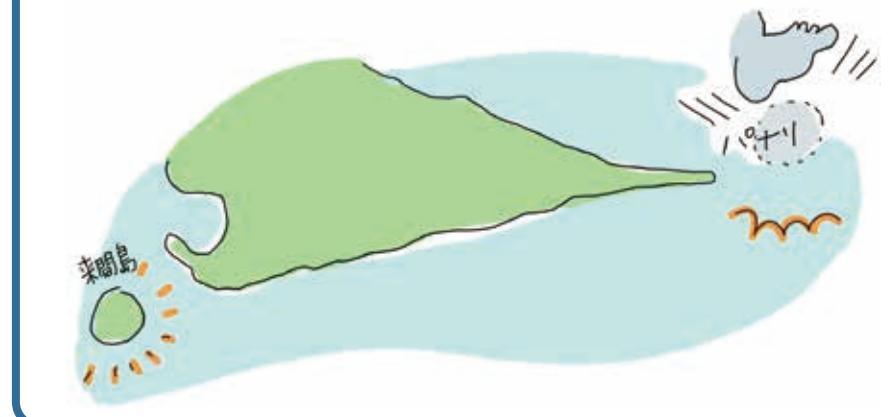
それを聞いた母は、我が子を連れ去られたら困ると思い、ティダを毒殺することを思いつき、子どもたちを子守に預けてウニヤ(ふぐ)を捕りに海に行きました。母を待つ間、泣いている子どもたちに「泣くな、泣くな、母は今ウニヤを捕りに海に行っている。ウニヤをティダ(父)に食べさせるために

行っている」と、子守が唄っています。それを聞いたティダはとても驚きます。「妻がそんなことをするはずがない、もう一度唄ってみなさい」と命づると、やっぱり同じ歌を唄いました。

それを聞いたティダは激怒し、大声をあげながら、アドウゴル(かかと)で大地を踏みつけました。その途端、大地が激しく揺れ、パナリ村は沈没してしまいました。

するとその瞬間、宮古島の反対側に、海の底から島が浮き上がってきた。ちょうど、大きさも形も、島との距離も同じでした。これがいまの来間島だそうです。

『昭和初期よりの保良風俗史』(1992)より



# マムヤの屋敷跡・機織り場・墓



保良地域では、昔から語り継がれている絶世の美女マムヤの物語や、「マムヤのあやぐ」という民謡が残されています。そのマムヤが住んでいた屋敷跡が、ゴルフ場に隣接する畑内にあり、産湯に使ったというマムヤーガーという井戸もあります。機織り場は、保良漁港の北側岸壁にあり、畳2枚程の空洞になっています。墓地は、灯台に向かう途中にある、岩の空洞に作られています。



## マムヤの物語

昔、平安名というところにニフニリ(香草)の香りがするマムヤという絶世の美女がいました。

その評判を聞きつけた野城の按司は、マムヤに一目会いたいと、平安名近くの海岸を毎晩のように探し歩きました。

ある晩、老若男女が踊るクイチャーワークの中に、一際目立つマムヤを見つけます。按司はここぞとばかりにマムヤを誘い、妻と子がいることを隠してマムヤと結婚の約束をしてしまいました。

しかし、いつまでも妻と子がいることを隠しとおすことはできません。按司は「いつか妻とは離縁するから」とマムヤを説得し、野城に連れ帰ります。

ところが、妻とマムヤの板ばさみにあい、悩むうちに、按司は子どもの将来を考え、とうとうマムヤに「今、お前と一緒にいるのは

楽しい。だが、子どもが安心するのは、子どものうんちやおしっこの匂いがついた妻だ」と話しました。信じて待っていたマムヤは、絶望あまり生きる意味を失い、村に帰ることもできず、海辺をさまよい歩きました。そのうちマムヤは織り残した機織り機が残りました。

一方、マムヤの着物や機織り機がないことに気づいた両親は、娘を捜しまります。平安名崎まで来ると「カッタン、カッタン」という機織りの音が聞こえてきました。母はマムヤの名を呼びながらその音のする方へ向かいましたが、いつまでたってもマムヤを見つけることはできませんでした。

母は泣きながら「素直で優しいマムヤはどこへ行ってしまったのでしょうか? 神様お願いします。この村にマムヤのような美人は二度と生まれないようにして下さい」と祈ったという話です。



みやこじまほらせつかいかだんきゅう  
宮古島保良の石灰華段丘

石灰華段丘は別名太陽泉と呼ばれ、保良宮土の崖下に発達しています。炭酸カルシウムを多く含んだ地下水が地表に流れ出して水分が蒸発することで、石灰の成分(石灰華)が分離し、沈殿して小さな棚田状の池を作っています。

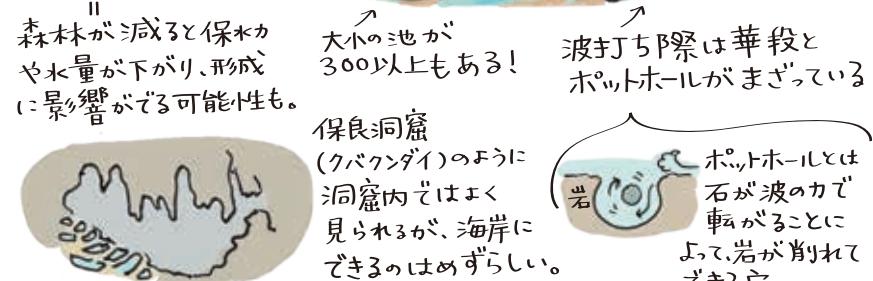
太陽泉には300個以上の小さな池があり、鍾乳洞以外の野外で石灰華段丘が形成されることは珍しく、学術上貴重な国指定文化財です。

せっかいかだんきゅう  
石灰華段丘のできるまで

雨水が石灰岩の中を通過することによって、炭酸カルシウムが多く溶け込んだ水になる。

緩やかな傾斜と絶妙な水量で安定して流れ続ける地下水があることで形成される

森林が減ると保水力や水量が下がり、形成に影響がでる可能性も。



大小の池がある300以上もある!

保良洞窟(クバクンダイ)のように洞窟内ではよく見られるが、海岸にできるのはめずらしい。

波打ち際は華段とポットホールがまざっている  
ポットホールとは石が波の力で転がることによつて、岩が削れてできる穴



300以上ある棚田状の池

華段とポットホール(海ぎわ)

**注意**  
× 踏んではダメ!  
踏んでしまつと成長中の華段が崩壊し、そこで成長が止まってしまう。

なな また

## 七又のミーマガー



ミーマガーは、七又集落東南の嶺間の崖下にある湧き水です。このあたりは湧き水が少なく、ミーマガーは集落唯一の水源でした。崖を岩伝いに降りねばならず、水運びは重労働でした。戦後、集落内に井戸を掘ったものの水量が少なく、昭和30年頃まではミーマガーも使用しました。節まつりの時には「ンマリガーア」の水として使用され、この水を浴びると若返るといわれています。



## 鬼の杵、神の杵とウンヌヤー

ウンヌヤー カンヌンナツキ 鬼の家  
さとうきび畑の真ん中に、2本の石が立ち、  
神様と鬼が対決した場所といわれています。  
また道をはさんだ反対側に、ウンヌヤーと呼ばれる洞穴があります。戦時中は避難壕として利用されていましたが、いまは埋められ、中に入ることはできません。



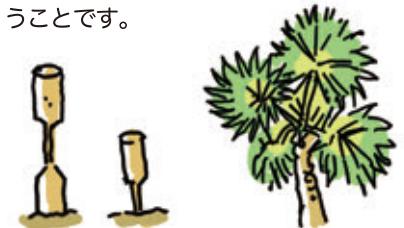
むかし、七又に住む娘が、織り上げた反物を納めに平良へと向かいましたが、思いのほか時間がかかって夜になってしまいました。そこで、一晩泊めてもらおうと明かりのついた家に入ると、ドウルドウルと鍋で何かを煮ています。ふと覗き込むと、なんとそれは人間でした。「アガイタンディ！ここは鬼の家だ！」と逃げようとした矢先に、戻ってきた鬼につかまってしまいました。

このままでは殺されると思った娘は、「便所に行きたい」と申し出ます。鬼は逃げないように腰に紐を結びましたが、娘は藪の中でこっそりとひもをはずし、夢中で走って御獄に逃げ込みました。

しばらくして逃げられたことに気がついた鬼が御獄まで追いかけてき

て、神様に女を返せと騒ぎたてます。そこで神様は「では杵を投げて勝った方が首をもらうことにしよう」と鬼に勝負を申し出て、お互いに杵を投げ合いました。

結果は、鬼の杵は地面に浅くつきさり、神様の杵は地面に深くつきさりました。神様の勝ちです。そこで神様は約束どおり鬼の首をとり、クバの葉で包み、「クバの葉が枯れたら降りて來い」とって天にあげました。ところが、クバの葉は年中青々としているので、今でも鬼は降りるに降りられずにいるということです。



## ぐすぐべのアギイス(力石)七又・新城・西中



戦前は各集落で青年による力試しが盛んに行われていました。「アギイス(力石)」は、今まで持ち上げる方法と、両手で頭上まで持ち上げる方法がありました。力試しが行われなくなった戦後、多くの石が行方知れずになりました。



## おっぱい山 やま

いつの頃からか「おっぱい山」と呼ばれ、親しまれているふたつの山は、女性の胸を想像させるユーモラスな形をしています。「おっぱい山」は、「西の森と東の森」という民話として残っています。



昔、ティダ(神様)が、アウダ(もっこ)にふたつの森を乗せて歩いていました。パスンツ(路地)にさしかかった時、ティダは石につまずいて転んでしまいました。その勢いで落としたふたつの森が

「西の森」と「東の森」になり、アウダ(天秤棒)は「南の嶺」となりました。そしてティダがひざをついてできたくぼ地からはとうとう水が湧き出てきたので、ティダパイ(ティダが掘った井戸)というようになりました。

「西の森」と「東の森」になり、アウ

